

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [多摩市立東愛宕中学校] 担当教諭名 [竹内 美弥] (美術部 10名)

相手国・地域 [オーストリア]

海外学校名 [Neues Gymnasium Leoben] 担当教諭名 [Albert Ecker]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	部活動・美術部	国際交流	30

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	平和の中で生きる
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	自然の中で、人間がジェンダー差別したりされたりすることなく、平和の中で生きていけることを願う。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
授業では課題として取り上げる機会の少ないジェンダー平等の問題について中学生の意見交流ができたこと。知らない国の子どもとも、想いをもって向き合っていくことが大切であることに子どもたちが気がついた。	時間の制約があり部活動の中でだけアートマイルに取り組む方向は変えられないが、作品を通して海外の国の子どもや社会の情報を校内の生徒や保護者、地域へ積極的に伝えていくことをあらためて課題とした。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
異なる文化をもつ中学生との交流には驚きや戸惑いを感じていたが、次第に同世代の学生との交流という意識に変化をしていった。文化や考え方の違いを体験したことで、自分たちの常識に対して、考える姿勢が出てきたことが大きな変化であった。	交流校の先進的な活動を知ることができて日本の教育の現状を再認識したり学ぶことができた。テーマの設定や指導内容はさらに深めたいと考えている。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	メールによって、自己紹介・学校紹介、地域紹介を行った。日本とオーストリアについての調べ学習を行った。	昨年度も参加した部長が中心となり、1年生に自己紹介のアドバイスをしたり、調べ学習でも下級生を引っ張っていく様子が見られた。	部活動
共有 テーマ学習	10月	ユニセフのHPの資料などを使い、平和・ジェンダーについて学習を深めた。メッセージ、壁画デザインについてメールで連絡した。	テーマについて、生活を見つめ直し自分の言葉で表すことができ、壁画の構想ができていった。	部活動
融合 メッセージ作成	11月	壁画制作を開始した。	描くもの、色彩などをどうするか話し合う場面が多くなった。	部活動
創造 壁画制作	12月	締め切りを目前に完成を目指した。また、発送に向けてニューイヤーカードを制作した。	助け合いながら制作に取り組み、日本側の制作を完成させた。	部活動
評価 振り返り 自己評価	2月	オーストリアから完成した壁画が届き、自分たちの制作を振り返ったり、感想を話し合った。	表現の違いや色の使い方の違いに驚いていた。	部活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	テーマに関連して学習する中で、普段は言葉にしないう課題についても自分の考えを素直に表現できて、課題をつかむことができた。
異文化を理解する力	3	直接の交流はできなかったが、映画や資料を通して学ぶことができた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	地域学習などは積極的にできた。どのような課題があるのかなどより深く調べることができた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	2	英語に関してはハードルが高いので生徒は日本語で文章表現した。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	文化の違いについて、幅広い視点から考えるきっかけとなり、改めて自分たちが常識と考えていたものに対して、捉え直す機会となった。
主体的に考え行動する力	4	昨年度から参加している生徒は、経験を生かして活動をリードしていた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	3	調べ学習や構図、描く対象などについて、部活内で何度も話し合い、意見を共有する場面が見られた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	何度もスケッチしたり、描き直したりして、粘り強く制作することができた。自分自身の表現力を高めたいという気持ちも強くなったようだ。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	美術部員は言葉や身体的な表現が苦手な生徒が多いが、造形表現を通して自分自身を評価し成長させていることがわかる。